

麻績村の教育方針に関する研究検討委員会

「第16回保育園・学校部会」 会議録

日時 令和元年9月19日 午後5時00分

場所 地域交流センター 第3研修室

出席委員 市川祥介(麻績村教育委員) 小山正文(麻績村教育委員)
中原 敏(筑北中学校長) 赤羽利樹(筑北中学校教頭)
峰田由紀子(筑北中学校教務主任) 福田弘彦(麻績小学校長)
高野恵理(麻績小学校教頭) 鳥海 康(麻績小学校教務主任)
臼井孝夫(麻績保育園長) 高野羊子(麻績小学校PTA会長)
柳澤友則(麻績小学校前PTA会長)
刈間伸一(麻績小学校前々PTA会長)
藤原宗功(筑北中学校PTA会長) 山本一義(筑北中学校PTA前副会長)
欠席委員 小山芳道(筑北中学校前々PTA会長)
宮川裕満(学校組合教育委員)

教育委員会事務局 臼井太津男(教育次長) 佐藤克哉(主事)

1. 開会

教育次長：定刻となりました。麻績村の教育方針に関する研究検討委員会第16回保育園・学校部会を始めさせていただきます。よろしく願いいたします。本日教育長は所用で欠席させていただいております。それでは部会長あいさつをお願いいたします。

2. 部会長あいさつ

部会長：皆さんあらためてこんばんは。秋の収穫が始まりまして今日も稲刈りをやっぴらっしゃる方がいるそうです。本当に1日の仕事でお疲れの所、しかも峠を越えて帰っていただいたりそれぞれお疲れの所ご都合をつけてご参集いただき誠にありがとうございます。小学校は皆さんご承知の通り感動の運動会これに続きまして50周年記

念事業の準備等、保育園は明後日大運動会を、中学校は来週に1年間の一番の行事である文化祭を控え、それぞれのPTAの皆さんを含めながら充実した日々をというより充実しすぎた日々を送っていらっしゃるだろうと思います。さて、村立中学校になるまであと半年ですが過日夏休みを返上して小中学校の先生方が一堂に会し、一貫教育について情熱的に話し合いをしてくださいました。今日の資料に関係したものが出てきているようではありますが本当にありがたいことであり、詳細は綴りの中にあると思いますが次長さんが館報に書いて下さった通りです。この小中学校の先生方の話し合いだけではなく、例えば小学校6年生と保育園の子どもたちの交流会、あるいは運動会とか間もなく開かれる文化祭等でも色んな交流、あるいは一貫性の追及が着々と進められておりまして一貫教育はまさに現在進行形、皆さんが力を出し合って出来ることからどんどん実行していただいているということ誠にありがたいことだなと感じているところであります。このことは保護者も我が子を通してご理解をいただいているようでありまして喜びの声が私の所にも届いております。皆さんご承知かと思いますが二宮尊徳という人、小学校にも偶像が作られていました。尊徳が作とされている詩があります。『この秋は雨か嵐かしらねども、今日のつとめに田草取るなり』秋になって嵐が来て田んぼが全部ダメになってしまうかもしれない、そんなことになれば今から苦勞して田の草を取っていてもしょうがないという考えもあるけれど、豊かな実りを目指して今日やるべきことをキチッとやっつけていこうじゃないかということがこの詩の趣旨かと読み取っています。たしかに多少の異なるご意見は聞こえてきますけれども、子ども達に直接責任を持つ私どもは一貫教育を目指して、目の前の子どもたちのために今為すべき日々をつとめを肅々と果たして更なる見える形での成果を上げていきたいものだと思っております。本日は次第の通りであります。出された資料も次長さんから伺いますと、関係した皆様方が自発的にご用意いただいたそうで感動的で感謝いたします。本日も忌憚のないご意見を交換し合っていただければと願っております。よろしくお願いたします。

3. 協議事項

教育次長：それでは、協議事項に入りたいと思います。協議につきましては、部会長に進行をお願いいたします。

(1) 前回の部会（6/26）の再確認

部会長：それでは、前年度までの部会としての検討と実施事業についてということで事務局から説明をお願いします。

教育次長：それでは、私の方から前回の部会の内容について簡単にご説明いたします。従前、分散会として検討を行っていた項目を重点事業として6つの項目に絞っていくということでありました。その6つの項目は今回の次第にも書いてありますが学力向上、国際理解、ICT教育、ふるさと学習、PTA活動、コミュニティスクールの6つにしたものでございます。前回の中につきましては今後の6つの重点項目につきまして現状と課題、問題提起等を行ったものでございます。その中でも特に具体的なものもお話しされまして、新しく行っている国際理解授業、特に中学校の方が多いんですがそういう形についても紹介されて実際に行っている授業が結構あるのでもっとPRしていただけないかというご意見もいただきました。それは館報の記事にも反映しましたが、まだまだ色んな部分でPRが足りていないかなというのが事務局の反省です。ふるさと学習という部分につきましても小学校から中学校への結びつき、中学3年の時には今までの集大成としてかつ、地域にフィードバックすることということで話し合いがされたところでもあります。更なる小中の連携のということで夏休み中の連携会議の提案もされまして、実際に夏休み中の7月31日に中学校において小中の先生が集まられて連携会議をされたという部分があります。問題提起という部分ではPTAの小中合同も今後という部分で提起されました。大変簡単ではありますが、このような形で前回の復習とさせていただきます。

部会長：何かご質問ご意見付け足し等ございましたらよろしくをお願いいたします。よろしいでしょうか。それでは次に移ります。

(2) 重点項目について報告と協議

～現状・課題・問題提起等～

① 学力向上

- ② 国際理解
- ③ ICT教育
- ④ ふるさと学習
- ⑤ PTA活動
- ⑥ コミュニティスクール

その他項目

部会長: 中学の方から報告をお願いします。

委員: よろしく願いいたします。冊子の資料と市民タイムスの記事の資料、小学校から出されております研究授業の案内をご参照いただきながらお願いします。重点項目についての報告ということでさせていただきたいと思います。小学校と中学校でこのような取り組みをとということで聞いていただければと思います。冊子の資料の1枚目をご覧ください。学力向上の取り組みですが小学校中学校共に思っているのが、小中一貫アクティブラーニングで取り組みを始めていくという所があります。小学校中学校共に全9教科で主体的対話的な深い学び、アクティブラーニングの授業、子どもが主役の授業を実施するため教職員が授業づくり研修に取り組んでいるところであります。主体的対話的で深い学びへの授業改善により知識技能及び、それらを活用する力の向上も目指しているところであります。(2)の全国学力状況調査結果からということで現在考察をしているところであります。後日皆さんにもお示ししたいと思っておりますがその中から少し見えていることですが、これらの授業づくり研修を小中共に進めておりますが少しずつ成果が見られているかなと思います。国語では話すこと聞くこと、数学では数と式、資料の活用、英語では聞くこと読むこと話すこと、ここら辺で成果が出てくるかなという所です。数学の資料の活用ですが、ここは大きく成果が出ているかなと見ているところであります。2点目です。学習状況調査結果からですけれども、例えば自分には良いところがあるとか、いじめはどんなことがあってもいけないことだと思ふとか、先生はよい所を認めてくれるとか、そんな風に前向きに捉えている子どもたちが多く見られているところが成果として表れているのかなと思って見えています。3点目です。第2回の授業作り全体研修ですが10月8日に行います。別紙の日程をご覧ください。

授業を2本行います。渡辺教諭の授業は個人研修授業ということでやらせていただいて、丸山教諭の授業は個人研修ではありますが全校研修授業ということでやらせていただいて、その授業について全校研修会ということで講師を引き続き今年1年信州大学の伏木先生にお越しただいてご指導をいただくという日程になります。小学校にもお声掛けをして可能な先生方に出席をいただいて、お互いに授業づくりについて学び合う日にしたいと思います。第1回は5月15日に開催済みで今回の委員の皆さんにもお越しただいたり、小学校の先生方にも全員お越しただいております。第3回が1月28日に開催の予定です。また人権教育研究会、文部科学省指定研修になりますけれども11月8日になります。まだ仮の案内ですが、このような形で10月に入ったところで全県に発信できればと思っております。およそですけれどもお昼からスタートということで『響き』、『鍛え』の時間、全校集会の発表というかアトラクションが出来たらなと考えております。県のスポーツ課から指定の依頼を受けていると言いますか、ダンスの学習に取り組んでほしいということで県のスポーツ課からDVDを小規模校の中学で実施して欲しいという依頼を受けまして、それを11月の1か月間かけて8時間、1年から3年までの合同授業でスポーツ課からの依頼で出来れば合同か全校の授業でやってもらえないかということも受けまして、そんなダンスの授業に取り組むんですがそのダンスの発表をアトラクション的に出来ればと思っております。その後公開事業3年の社会の授業を予定していますが、今授業づくり研修をやっております学び合いの授業を見ていただければと思います。その後授業研究会を挟みまして講演会を計画しております。講師が松本市の斉藤金司先生、元県の教育長ですとか松本市の教育委員長をやられた先生になりますが、この先生からご講演をいただく予定で考えております。これも学力向上の取組の延長の発表という風に捉えていただければよろしいかと思います。授業づくり個人研修ですが全体研修ということでお伝えしました。年3回小学校さんにも来ていただいたりして共に学び合うということですが、個人研修ということでその他にもそれぞれ講師に来ていただいて授業づくり研修に取り組んでいるということでご参照いただければと思います。続きまして国際理解、ふるさと学習、コミュニティスクールについて教務主任の方から発表させていただきます。

委員: よろしくお願いたします。国際理解教育につきましては今までの委員会の中でもこのような計画を立てています。またこんなことを行いましたという報告をさせていただいたので(1)にあるものは個々に書いてある通りですが今日はその実物だけ資料でお持ちしたのでまた見ていただきたいと思います。3枚ありますが今年交流として手紙の文通をやっているので参考にさせていただけるといいかなということで本校の生徒、今中学校2年生ですが生徒が送った英語の手紙とハンガリーの子から帰ってきた返事の手紙です。内容は私も分からないところもありますが、好きなアーティストの紹介とか、あなたは何が好きといった内容ですが、こんなものが1回だけじゃなくて2回目3回目と続いていくといいかなと思っています。交流の方はこれから11月と1月に実施予定です。先日ですが清水仁君のお姉さんがハンガリーに留学しているんですが、一時帰国していたということなので学校に来ていただいて文化の紹介をしていただいたり、ALTのアンナ先生もTT等いろいろ入っていただいて、それもまた小学校の方にも行っていると思いますが小中合同で何かできたらなと思っています。またこれも予定ですが、中学校の英語教員が小学校に出向いて授業が出来たりとか生徒が行ってというまではいかないかもしれないけど出来るだけそんな交流が小学校にも英語が入ってきますので、何か繋がりが出来ると入学してきたときにギャップが少ないのかなと思います。国際理解につきましてはまたパンフレットの方も合わせてみていただければありがたいです。続いてふるさと学習についてですが、今年は3年生が主で行っていたものですが1、2年生も同じく地域、ふるさとを知っていきこう、文化を知っていきこう、文化財を知っていきこうということで取り組んでいます。各学年のテーマは1年が文化財を知るということで2回ほど外へ出て福満寺とか神明宮に行ってお話を伺っております。2年生は歴史を知るということで、こちらも2回外に出ておりますが次回10月には善行寺街道を歩いてみたい、いろいろ勉強してみたいという生徒の声がありましたので計画しているところです。3年生につきましては市民タイムスにも載っていますが、今までの学習を生かしてということで具体的な活動、各自テーマを設けてそれについて事前に調べて各関係する役場、事業所等に出向いて取材をしてそれを振り返って次の課題追及にというような活動をしました。これについては市民タイムスにも載っておりますが資

料として1枚物の市民タイムスの記事の裏面になります。3年生の各生徒が決めた個人の追及テーマ、テーマそのものは村の活性化に向けてどんなものが考えられるかということで活性化案、調査をするとしたらどこで誰にするといいのかということが書かれています。これだけ見てもかなり実現したら楽しいだろうし、いっぱい人が来るんじゃないかという魅力的なものがあっていいかなと思います。これを最終的には地域に、ふるさとに還元していくという所まで持っていきたいんですが、まず1年生も2年生も3年生も学習したこと、学んだことを文化祭の発表の時間でステージ発表で発信して行って還元していくという形で準備を進めているところです。また文化祭が終わってからもこの活動は続いていきますので、さらに充実したものになればいいかなと思います。また生徒の疑問を中心に据えて展開されるといいかなと思います。流れでコミュニティスクールにいきます。先ほどのふるさと学習はコミュニティスクールでもいくつか地域の方のお力を借りて進められておるんですが、キャリア教育支援部というものが今年から立ち上がりましたが職場体験学習、昨年まで1年生がやっていた福祉教育、職場体験学習は2年生でしたがここも1年、2年を合同として一緒に行っていく、地域の方のお力を借りながら地域を知るというふるさと学習に繋がっていくんですが、これが行われたのがこの夏休み明けです。キャリア教育の所では前回の委員会でもお話をしましたが、いろいろな方たちに来ていただいたりしましたが最終的には冊子の英語の手紙の裏面にあるような事業所の方々にご協力いただいて、1年生は福祉教育もかねて福祉施設へ昨年度までは交流という形でおさまっていたところを体験ということで二日間スタッフとして学ばせていただいております。また2年生は一人一事業所ということをお大前提としてそれぞれの所に一人で二日間行かせていただいてキャリア教育をさせていただいております。長野工業さんは村内にあるところなんですけれど、ここでは危険だからということでわざわざ千曲市から迎えに来てもらって生徒を乗せてまた送り届けてくれるというように生徒が学びやすいように環境を整えて受け入れていただいたので大変ありがたいなと思います。またこの事業所もそうですけれど、お客さんで終わらないようにいろいろ考えていろんな体験をさせていただけるような計画を立てていただいたり、インタビューをした時も答えていただいたりと時間を取っていただくという

こともありがたかったなと思います。生徒の反応なんですけれども、ふるさとにこれだけの事業所があるのかとか、福祉施設に行った生徒は村の自分の身近な所に知っている顔の人達がデイサービスがあるということは安心できるし家族の人たちも安心して預けられるし、本人も安心して利用できるということが良いなと思った、また雰囲気も温かくていいなという感想がありました。最終的にはふるさとを学んだことでこう思ったということを考えさせてただ行ってきて終わりではなくて、あえてふるさとで体験学習、キャリア教育をすることで何か新しく見直すとか良さをそれぞれの言葉でまとめられるといいなと思います。これも文化祭で発表しますので是非来ていただくとありがたいです。地域の方のお力をいっぱい借りての活動でした。コミュニティスクールの学習支援部ですが放課後学習を続けてやっておりますが、今年は参加者の人数が昨年に比べて倍ぐらいになりました。講師に来ていただく山田先生ですが3年生の数学が心配だということで自ら宣伝のチラシを作って3年生に働きかけてという活動もしていただいているので、そんなところも生徒たちに行っていけばいいかなと思います。また学びの広場は教育委員会の方で主催でやっておりますが、例年より2か月ほど早くからスタートで3年生の授業対策ということで始めていただきます。また5教科中心の講師の方が来ていただけるようにお呼びいただいているようなので学校としても声をかけていきたいと思っています。図書館支援部、スポーツ文化活動支援部、環境支援部は計画通り、またプラスアルファでいろいろと気を使って充実した内容をさせてきていただいているので引き続きお願いしていききたいところです。

委員：資料の小中連携会議の開催についてですが後ほどでもよろしいでしょうか。小中一貫ということで小学校さんからもこの研究授業のご案内が出ていて共に授業づくりについて学び合うということを小中一貫でやっておりますので、その他のこと国際理解、ふるさと学習もコミュニティスクールもそうですので、小学校の方からここまでの所をご発表いただいて小中連携会議の所に触れられればと思います。

部長：それではここまでの所に関連して小学校の方からお願いいたします。

委員：7月以降の取組としては年間計画にある中でも保育園参観ということで夏休みを利用して、7月26日金曜日の午前中に全職員で保育

園参観を行いました。保育園から小学校へのスムーズな移行というものを大事にしておりまして、ゆったりした日課の中でよく見させていただくということは職員にとっても大変勉強になったかと思えます。7月31日の小中連携会議は先ほどの中学校さんからの通りです。会議系としてはキッズサポート会議の中で小中の連携として9月6日に、保育園とのキッズサポート会議も9月27日に行う予定で特別支援の関係としても情報交換をしてスムーズに次の学校に送れる、迎えられることは大事かと思い大変重要な会議だと思っております。職場体験を中学校の方でたくさん挙げられておりましたが、今年小学校の方に中学校から1名職場体験の希望がありまして二日間ということで受け入れました。小学校を巣立って二年目の方ですが大変強いご希望があつて麻績小学校の現場を見たいということで受け入れさせていただきましたが、こちらの職員も知っている生徒だったりして何年か後にそうやって来てくださるということはありがたいことだと思つていろいろお話が出来たかと思えます。また9月24日から10月7日にかけて松本大学の教育実習生が来ますが、麻績小と筑北中出身の学生さんです。松本大学は私立の大学なので附属の学校を持っていないということで今後またそちらの大学で教職を取るような生徒がいれば必ず戻ってきて実習をすると思つております。そういう繋がりを上手に生かせればと思つております。本校50周年ということで、50周年の重みに触れられて子どもたちというのは得をしたと思えますし将来的にも50周年の時に小学校何年生だったよねということは必ず覚えていることだと思えます。6月の音楽会ではふるさとの四季の合唱を全校で歌い、3年生は聖太鼓という地域の団体さんから指導を受けて発表することが出来ました。先日50周年記念運動会ということで低学年ではダンスの中で「麻績小50年」という言葉をキーワードにして何度も繰り返すという楽しいダンスを披露してくれました。ふるさと学習にも絡んできますが、番場踊りという地域の盆踊りの団体さんに3回来てもらつて練習をし、本番を迎えその場でも一緒に踊るという事が出来ました。運動会に向けて職員も子どもたちも50年の歴史を紐解いて先人たちの歩み、例えば剣道とかスケートが盛んであったとか、日向小の校歌を発掘したりしてということがあります。11月に式典がある訳ですがまだまだ計画は進めていないのですがさ

やかでも自分たちの思い出に残ることが一つ出来るといいなと思って進めております。話が飛んでしましますがふるさと学習としては、自分としては教育課程を踏まえて各学年ごと順を追ったことが出来ればいいなと思っていたんですが、この半年間の先生方の様子を見ると学年のカラーとか発展の仕方とか継続の仕方というものが先生方のお考えも入れて計画されているということや、その年のトピックス等があったりして全てこちらで決めて紙ベースにしてしまうというのはどうかなと思いはじめているところです。今年の例で行くと、1年生が村内への遠足に行く予定ですし藍染も体験予定です。2年生は電車で遠足に行く予定ですし、クラブでは観月苑さんのご指導を受けたり、村内の探検クラブというところで探検をしているということがあります。4年生は夏休み中に福祉施設のみづきさんと交流を行いました。6年生は今度は筑中の文化祭などに招待していただくという計画になっております。このような形で7月から9月歩んで参りました。

部会長: 6項目が重点にされました。学力向上、国際理解、ふるさと学習、コミュニティスクールこの4点について中心的にご報告いただき小学校でも関連して小学校としてはこうやっているという報告がなされました。ICT教育とPTA活動はまた後で時間を取りますので、この4項目についての小学校や中学校のご発表に対して委員の皆さんから質問や意見を伺えたらと思います。

委員: 私の方から感想になりますけれども非常に具体的かつ迅速に進めているなという感想を持ちました。子育てを進めて行く中で出来れば基礎的なものとしての保育園の関わりも何か持てたらいいなと感じた次第です。

部会長: 他にどうでしょうか。

委員: 今の発表を聞いていて私が一番感じたのは、子どもたちがどうしても大人になって個々として生きていかななくてはならないという世の中の中で私自身の人生を振り返ってみると、自分の良い所というのはなかなか言えるということが少ないのではないかと思います。私のうちの子どもを見ていたり周りを見てたりすると、世の中最近では自分の良い所というのをアピールしていかなきゃいけない世の中に変わっていると思います。そういう中で、なかなか自分の良いところはどこって言えるかどうかというのは大事なんじゃないかと思っ

ていて、さっきの学力調査の結果から自分の良い所があるとか、そういう所を自分ではっきり言える人間になっていっているというのはとても素晴らしいことだと思っています。そんなところをこれまでも先生方が指導していただいていると思うんですけども、小さい村でありながら個々の勉強だけじゃなくて人間として豊かな人間になれるというところが、これから一番時間をかけて子どもたちが習っているところではないかなという、基本の所を見ていただいているというところは非常に感謝していますので、これからもそんなところを伸ばしていただければありがたいなと思います。

部会長: その他にどうでしょうか。

委員: 質問なんですけど、職場体験学習は自分が希望したところに行くのでしょうか。それとも元々決まっていて振り分けるのか、福祉関係に行きたいなという人がそこに行くのか、どんな様子でしょうか。

部会長: 説明をお願いします。

委員: 基本は本人がどういう職種に興味あるかなというところからスタートで調べています。村内にもこのような似たような職種があるんだよということを知るということで、商工会長さんをお願いして声をかけていただいて受け入れが大丈夫な所を一覧にしました。そこでどの職種が自分の行きたいところ興味があるところという風を選んでという形で、重なってしまうところは子どもたちの話し合いで融通を利かせてやったようですが、基本は子どもたちが興味関心ある職種です。

委員: 先ほど言われていたように麻績小学校に行きたいですという希望があると、そこに掛け合って今回は取り入れられたということですね。自分の子どもが行ったところが福祉関係だったので質問をさせていただきました。

委員: 付け足しさせていただきます。1年生は福祉教育を去年までやっていた流れもありまして少子高齢化が進んでいるということで、サービスとか福祉施設どういったものがあるかとか、おじいさん、おばあさん達入所されたり利用されたりしている方もいるんですが、どんなような形で利用しているかとか、スタッフの皆さんがどのように接しているかということも勉強してということで1年生のうちは福祉教育をまずやってみる、2年生だったらもう少し広めてみようということで、色んな職種に行ってみるというように学年によ

って違うというところで1年生は福祉施設でした。

委員：更に付け足しで、ふるさとを愛し国際社会にはばたく人材を育成したいということで、地元の事業にこだわって松本市や長野市ではなくて、ふるさとの事業所にこだわって事業所を選ばせていただきました。

部長：他にどうでしょうか。

委員：職場体験を受け入れた側として、1年生お二人来ていただいて今までは交流だったので時間も短いなと思っていたんですが、丸二日間ということはどうなるのかなという不安と、お子さんに聞いたところ職場の選択の余地は無いということ聞いていたんですが、とても評判が良くて利用者さんからは本当にかわいがってもらって、また来てもらいというのが本音なんですけれども、事前の学習と挨拶とか、先生も本当に努力していただいたと思うんですが、何回も報告で訪問しますと職場体験しますという詳細とかもしっかりといただいて、事前に子どもたちからも確認の電話が来て素晴らしい電話の対応で、最初から最後まで先生のご指導があってこんなに素晴らしい電話の対応が出来ているんだなと思いました。途中で先生に変わらず一人で電話を掛けてこなしてしまうということが素晴らしいと思いました。職場に来てそれは中学生なので照れはありますが、利用者さんもととても喜んでいて馴染んでくれたんですけれども、レクレーションをやらしてもらおうかなと思っていて、でも本人たちは話を聞いて準備が無いと思っていたんです。自分達でレクレーションをしてもらえますかと話をしたら用意は無かったんですが、筑中ソーランをやりますと自分から提案してくれたというところすごく積極的でした。お二人とも男女だったんですけれども本当に皆さん喜んでくれて今度いつ来てくれるのという話で、来年も是非お願いしたいですということ管理者から伺っています。

部長：副部長さんの方から何かありますでしょうか。

副部長：小中学校の先生方、夏休みをご利用しながら研修や子どもたちのためにいろいろ準備をしていただいて本当にありがたいと思っております。来年の4月からは麻績村立の中学になりますので、小中の連携を深めながらお願いしたいと思います。

部長：塚原委員さんどうでしょうか。

委員：村の方は公民館長は何やっているんだと思われるかもしれませんが、

私は今度の小中一貫教育のための連携支援員という仕事をもらっているんですが、自分でその役を全うできているかいつも不安に思っているんですが、今日小学校と中学校の発表を聞いてもらおうと先生方の方がすごく一所懸命になって一貫教育を目指して動いてくださるということがとても分かります。私が行っても仕事が無いみたいな感じで申し訳なく思っています。この間も研修会なんかに参加していただいて、あの時は来年は4月1日に動き出してその後練り直しをしたりして、2、3年すると見事な一貫教育学校になるのかなと思います。私自身がコミュニティスクールの両方のコーディネーターをしたり、連携支援員をしたり、学校の授業の応援をしたりといろいろやっているのでごちゃまぜの頭でみんなに迷惑を掛けているのではないかと心配です。今日こういう委員会で保護者の皆さんに知っていただけると良いことだなと思います。もっと村の方にも広く広報できればと思うんですが、館報は読んでいる人は読んでいるんですが読まない人はすぐに広告と一緒に捨ててしまっているような気がします。一所懸命役場や公民館が広報しているんだけど読んでいないというところでとても心配しております。いい研究会をしたり良いことを目指しているので出来るだけ皆で広報して、先ほど話が合ったように子どもが親に言って、親が理解するというのが最高の姿かなと思います。至らない私ですがお使いください。

部会長：塚原委員おっしゃられたように自由に使っていただいて、大いにコーディネーターの力を発揮していただけるよう学校の方でもよろしくお願ひいたします。親子の会話が上手くいっている家庭は非常に理解が深まっているなという思いがしますので、PTAの方でも親子対話を大いに進めてください。ここまでの4つの項目について付け足し等よろしいでしょうか。それでは残りの2項目について触れておきたいと思いますが、次長の方からICTについてお願いします。

教育次長：いろいろと遅れていていけないんですが、前の委員会の時に前回やったICTのアドバイザーの先生を呼んでというような事業に取り掛かろうと思って、文科省の委託事業なんですけどその大元の委託を受けている情報協会の方に聞いてみたら今年から文科省の方の委託の内容が変わって、今までは手を挙げた所にICTに詳しい先生を派遣してその地域の問題だとか課題についてアドバイスをしていた

だくという形ですごくやりやすかったんですが、今回文科省で考えているのが全国の何都市かで説明会のようなものを開催して、そこに先生がいるから各市町村で聞きたいことがあればそこでやってくださいという形で、こっちにしてみれば改悪したようなところがありましてなかなか前のような形で事業が取り組めないというところがあり断念してしまったので残念だったなと思います。今回予算化しているタブレットについてはこれから進めて行かないといけないなと思っていますし、一番はICTの部分の中で先生方の中で何を困っていて何を望んでいて、現在ある部分に対してどのような活用が為されているのか、あるいは活用が出来ないものなのかという所がどういう風に進んでいったらいいかと悩んでいて、それをうまくコーディネート出来ていないので悩んでいます。多分来年は厳しいと思いますが再来年にはパソコン教室の入れ替えという形になってくるので、その部分に対しての大元のやり方をどのように進めて行ったらいいかということも具体的に考えていかないといけないので、それは教育委員会だけが進めて学校に押し付けるのではなくて、あくまでも現場として要望があるもの、なおかつ小規模な学校故のメリットを生かせるようなもので簡単に言えば一人一台タブレット端末を与えるような形にしたいとは思っているんですが、それをどのように進めて行けばという所が自分自身ICTに対して理解が深くないので、色々な形を考えながらやっていければいいのかなと思っています。今の現状の中で学校としてはどうなのかという所を上手く先生方とコーディネートしていかなければいけないと思っているのが実情です。

部会長:今の現状と見通しについてご説明いただきましたが何かご意見等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。最後にPTA活動についてということは(3)の方に加えさせていただきます。重点項目が6項目ですが学校からその他の報告ということで話をさせていただきました。そこに加えて小中連携会議の開催、前回行われたものを含めてこれからはこのように考えたいというご提案がございますので、その辺りを中学の方からしていただいて歓談した後、小学校の方から話をさせていただいて皆からご意見をいただくという形で進めて行きますのでよろしくお願いいたします。それでは中学校の方からお願いいたします。

委員：先ほどの冊子の資料の表紙をご覧くださいまして、先ほどからもご発表いただいていますように7月31日夏休み中の半日を使いまして、小学校と中学校の全職員を今回は中学校の方に集まっていたいて小中連携会議というものを開催させていただきました。両学校長のご指導の下、教頭間で作戦を練ったりしながら開催をさせていただいたというものでございます。狙いは申し上げるまでも無く皆さんご承知かと思いますが、小学校と中学校の職員で意識を同じにして9年間で子どもを育てたいという気持ちや意識を高く持つということと、具体的に分科会というものを当日やらせていただきましたが、具体的にどんな連携、一貫教育をやっていくか議論をしますと言いますか、そこまで十分にいかなかった分科会もありますけれどもそんなことを狙いとして連携会議というものをさせていただきました。内容ですけれども、資料にもありますが市川先生に基調講演をしていただきました。私を含めまして今年度から麻績村にお世話になっている職員もいるものですから、そんなところで市川先生に今までの経緯であるとか、小中一貫校の意義であるとか、重要性という所についてお話をいただいて、職員が同じ土俵に乗ったということでそんなことをさせていただきました。その後ですが分科会ということでそちらにあります5つの分科会に分かれて、それぞれ小中の取組についてお互いに発表し合ったり、子どもたちの課題であったり成果であったりという所を確認し合ったりとか、これから小中一貫で何が出来るかということ具体的に話し合ったり、そんな事をさせていただきました。最後の全体会で麻績小学校の福田校長先生からご指導をいただきまして、夏休みの半日ですが良い会議になったのではないかと考えています。その具体ということで、各分科会のここに居ますメンバーが各分科会に入りましたので、各分科会の様子がどんなであったかということをご説明させていただきます。まず学力向上については私が司会者ということで入らせていただきました。どんなことかと言いますと、体力や学力について気になる点を出し合いまして、体力で言えば持久力や握力が弱いね、柔軟性が弱いね、車に乗って登校する生徒が多いね、今夏場で水泳の時期ですのでクロールは得意だけれど平泳ぎは苦手だねというような話をしました。学力の方では、今回の学力調査の結果でも出てきたんですが小学校も中学校も「書くこと」が苦手だね、とい

うような課題が出てきました。家庭学習の習慣づけをしたいということで小学校も中学校も共通で課題というか出てきました。すごく素直な子どもたちではあるんですが、地域柄ということもあるかもしれないが「分かりたい」、「出来たい」という危機感が無い子が多いのではないかというか、割と大らかでそういう所が長所ではあるけれども危機感が無いという所があるかなという話をしました。今後なんです、そういう課題を持ちながら宿題のことについて小中連携してやっていきたいねという話をしました。また引き続き授業づくり研修を小中両校とも一緒になって学び合えたらいいねということが出てきました。課題ですとか成果、良さを共に共有をして小中一貫で9年間で子どもを育てるという意識で取り組みたいねということを確認し合いました。私の感想にはなりますが、麻績村は小中9年間で主体的、対話的で深い学びの授業をする小中学校であるということを目指していければいいかなということを感じたりした分科会でした。続きまして国際理解の分科会の報告をさせていただきます。

委員：国際理解というか小中連携の国際理解はこれまでも続けてきていると所なんですけれども、メンバーが変わるということで昨年度どういことをやってきたかということを確認しました。その中で文化祭の時に英語聞きのようなことがあったんですがそこに呼んでもらったとか、中学校から出前授業という形で英語を教えてもらって、中学でやっている英語に近いと思うんですがほぼイングリッシュでやってもらったという情報交換をしつつ、昨年度信大の留学生が来ていて中学校の方で授業をしているのを見せてもらった経緯があるので、そこら辺の所で小学校の方も留学生の方が来たときに一緒に混ぜてもらうことが出来ないのかなという話をしていました。出来る限りやっていきたいと思いますという所で、出前授業については今年度も前向きに検討したいということになっているんですけど、中学校の先生の方にお世話になってしまう形にはなるんですけども昨年度の出前授業の時期が中学校の懇談会の時期に注意していただいてということで、英語の先生が担任ではなかったという関係で可能だったんですが今年度は英語の先生が担任を持っているということでその時期はダメだからどうしようかという所で時期についてはまた相談しましょうという所で話が終わっています。

委員：ふるさと学習をお願いします。

委員：中学校での先生の取組が素晴らしくて、どういう内容かと言うと生徒さんたちの手で「ふるさとプロジェクト」という風に題して麻績から善光寺までの宿場町の写真のカレンダーを制作したという実績が発表されました。それを販売し幅広く麻績村の紹介をして、売上金を寄付するというような活動にまで発展したというような発表を聞かせていただきました。自分たちだけで満足するのではなくて、麻績の方に返して、また自分たちの考えによって寄付するとか、いろんな方を巻き込んで一つ作り上げているところが素晴らしいなと思いました。体験学習とか課題追及学習を行いながら何が麻績の強みなのかなという所を常に問い続けていくことが、中学生になった時に一つ難しいワンステップ上の所に到達してもブレない力になっていくんじゃないかなと感じました。私たちは全部レールを引いてしまってお膳立てしてやるのではなくて、職員がどのようなテーマを用意したらいいかという下地を持っていることは大事なんですけど、準備したものが思うように進まなくても試行錯誤して、柔軟に変更を入れながら一緒に悩んだり感動したりしながら進めて行けるような形を作れるといいかなという風に感じました。

委員：コミュニティスクールについてお願いします。

委員：コミュニティスクールというのは簡単に言うと学校応援団のようなものです。私は小学校と中学校それぞれ別のコミュニティスクールのコーディネーターをしておりますして3点話し合いで出てきたことがあります。将来的に小中一貫教育をやっていくとすればコミュニティスクールの運営委員会などいろいろなものを出来たら一本化して連携して応援団をそれぞれ別々にあるのではなくて、麻績村の子どもたち全体を応援していくというようなコミュニティスクールにしていったほうが良いのではないかなというのが1点目です。2点目は人材バンクを作っているんですが、私一人で見られる人間の数は少ないので村人たちから情報を得たりして人材バンクを共有して応援してもらえばいいじゃないかというのが2点目です。3点目はコミュニティスクールの存在が村人たちに知られていないので出来るだけ広報して知ってもらうことが良いのではないかと思います。

委員：もう一つ健康教育については誰も参加していないので養護教諭から

聞いてきた話になるんですが、去年あたりから連携というか一貫という意識がすごく進んでいて麻績村の子どもたちの健康面で課題はどこ款という話は随時養護教諭同士で連絡を取り合っているようです。具体的に言うと保育園のころから視力が弱いということが課題として挙がっているということを知りました。大きいなと思ったところが小学校でも中学校でも学校保健委員会というものを開催しているんですが、講師を同じにして同じ講師にご指導いただくということを両養護教諭で話し合っているようです。そんな所から良い小中連携の姿が見えているなということを感じさせていただきました。今報告させていただきましたが連携会議を7月31日にやったんですが、部会によってはになるんですが今後また空いた時間に集まって話そうという風に言っている部会もありますので、そんなことがすごく進んでいって一貫教育が進んでいけばいいなと思いました。

部会長: 今の発表についてご質問やご意見がありましたらお願いいたします。

委員: 今回の連携会議の開催で様々の先生方が出ておられたと思うんですが、本当にざっくばらんな話何年かこの教育のことを知っている先生たちと今年初めて赴任してきて小さな村の学校からじゃなくて大きなマンモス校みたいな所からとか、赴任してきた先生によっては今回の麻績でやっているということをどんなように受け取ったのかなということを知りたい、確かに市川先生の基調講演から始まってこういう麻績の流れがあるんだということは理解したと思うんですが、先生も個人個人人間ですので取り方の温度差みたいなものがあったのでしょうか。その辺りに興味があって本当はそれぞれの先生にお聞きしたいところですが中学校の教頭先生代表で申し訳ないですけど教えていただければと思います。

委員: 学校の職員というのはまず、県内大きい所や小さい所いろいろ行かせていただいている中でどの職員も持っているのは郷に入れば郷に従えです。その土地ごとの大事にしている教育というのがあるものですからその教育を大事にした教育をやっていくということが各職員にあると思います。その中で郷というものがその地域の土地だとすると、教職員は風みたいな人間なのでその土地で大事にされている教育にいかにか風を吹かせるかという意識はどの職員も持っているかだと思います。今年来た職員を見てもそう思います。この

分科会にも自然に参加して一緒に前向きに取り組んでくれているかなと見ています。私個人のことですけれども、私もここに来させていただいてこういう取り組みをしているということを教えていただいですごくワクワクしながら取り組ませていただいています。

委員:ありがとうございます。これはゴールというものが無いと思います。ましてやこれからスタートという時期でスタートしてみた先にいろいろがまた出るんじゃないかと思うんですけれども、先生たちは生徒たちのことを考える第一線なので無理だけはしないように皆さんのそれぞれのペースというものを私たちもなるべく理解をしながら協力をしたと思っていますので、その辺をあえて強制ではなくて先生方のコミュニケーションというのも時間をおきながらでも出来れば一つずつやっていってもらいたいなと思います。私はこれは夢というか希望なんですけれども例えば先ほど次長の方から話がありましたけれども、いろんな機材をどう使うかというのも最初は難しいと思います。せつかく小さな村がこういう事をやり始めている、これからスタートした時にそういう機材を使ったりして日本全国や世界に発信できるようなことまで続けられるところまでいけば一番いいかなと感じています。先ほど塚原先生の方から広報が弱いという話を聞きまして私自身もそれは感じているところなんですけれども、3年間この部会にお世話になっているんですけれども館報にもこうやって書いてもらったものが載るようになってきたんですけれども、実際に読む人がどれだけいるのかなということもありますし館報だけでは足りないのかなとも私自身考えています。実現するかは別として例えば学校部会や検討委員会なりでも予算を取ってもらって、館報ではなくて独立した一つの機関紙みたいな形で発行なんてことも出来ないのかなとも考えてみたんですけどもどうなんでしょうか。読まない人は読まないと決めてしまうのももったいない話であって手を変え品を変え、本当に学校の先生、教育委員会、保護者だけではこの一貫教育は回らないと思います。村民をひっくるめた中でどれだけどういう事が進んでいるかということが、本来だったら学校に行っていない家庭も分かるぐらいに形に持っていければいいかなと思って、その辺の宣伝力というか広告力というかは考えていけないといけないかなと私も思っていますので、その辺の所はこの部会の中で考えていけるようになったらいいなと思いましたの

でお互い無理をしない形で進めて行ければと思います。

部会長: 広報をどういう風にするかというのは最初からずっと続いている課題ですので、今の様に特別な機関紙のような形で館報などとは別に別個に出すのはどうかというご提案もあります。小中学校で行われた話について内容の説明がありました。その他今の結果報告についてのご意見等ありますか。

委員: 今の報告の件につきましては非常によく、また深く皆さん研究されているなという感想を持ちました。小中連携会議という形の中での話をお聞きした訳ですけれども、保育園の方も保育園と小学校の連携という形で進めて行く部分もありますが、そこら辺の所も含めてご協力できればと考えています。

部会長: その他にありますか。

委員: 小学校のPTAの方からなんですけれども、特に夏休みがあった分6月の部会から今にかけて大きな活動の変化は無いんですけれども、これ全部研修会は先生方とか教育関係者の方のみの参加ということになりますか。

部会長: この間は突然だったので出れる範囲のところへご連絡をいただいた形だったかと思います。そうしないとあまり無理やりに出てこいと言われると行かなくちゃ行けないかなとお勤めをもっていらっしゃる方はかえって板挟みになるからというような配慮があったのではと私は思っています。

委員: 今後も伏木先生の講習があったりして非常に興味深かったりして聞きに行きたいとも思っているのですが、他の一般の保護者の方にもぜひ聞いてもらいたいと思うのでオープンにしてもらって関心のある人は来てもらって大丈夫ですという形にしてもらえればありがたいと思います。

部会長: まず7月31日の中身の発表がありました。そちらについてはよろしいですか。皆さんお含みください。私の方から一つ国際理解の関係で国際的な姉妹都市をとという話が出ていました。そういう要望も遠慮なく出していただければと思いました。もう1点教頭先生最後にまとめられまして良いと思いますが、前々からふるさと教育の中で小学校が今までいろいろやってきているものと中学の重なりがあるので、小学校であまりそっちの方はやらなくていいなど規制してしまうと小学校は各担任の思いで学級経営をしているから、その担任の思いは大

事にしたいと逆に中学の方から出されていたりもしていたので、最初からふるさと教育は学年ごと決めるのではなくて、およそ小学校はこんな感じで中学校の方はこういう風にまとめていきますという方向が今出ていますので、小学校は担任の思いも大事にしながら中学までの見通しを持って自分の思いを学級経営にぶつけていくというスタンスで良いような気がしますので補説をしました。そういうことで7月31日の件についてはご理解をいただいたということで、これからの小中連携会議をどう持ちたいかということで、今まで出ているのは中学の方から会議の計画の発表がありました。小学校の方からもこういう計画がありますということをお願いします。

委員: 10月3日木曜日の午後に国語の研究授業を4年生でやる予定になっています。対話的な学習を目指したつぶやきを大事にするような授業になります。ぜひ中学校の先生も時間がありましたら見に来ていただきたいですし、そういったところから中学校の授業と繋がられるような点を教えて欲しいなと思います。

部会長: ありがとうございます。関連して保育園は運動会が近々ありますが、保小中関連といったものは特に今の所よろしいでしょうか。

委員: 直接関連してということは無いですが、地域の皆さんとの交流、小学校とのつなぎという形の中でこれから行事の中で取り組んでいくことはあるかと思います。

部会長: それでは今出されたご意見で、研修等への参加ですが保護者全部に声をかけて参加者は少ないかもしれないがどうだろうというご提案がありました。中学校の方からお願いします。

委員: ありがとうございます。中学で今後計画されている第2回授業づくり研修と人権教育研究会のご案内を出させていただいております。実はこの中の委員さんでお越しいただく方もいらっしゃいますので校長とも相談しますが委員さんについてはお越しいただいてと思います。もう一度持ち帰りまして全PTAにアナウンスするかどうかについて考えさせてください。なるべくできればいいかなと思うのと、例えば人権の斉藤金司先生のご講演なんですが誰向けにやるのかというと教員向けにという話もしていますので、保護者の方にも聞いていただきたい内容かなということもありますので斉藤先生ともご相談なんですが、その辺でいいよという話の時にお声を掛けられればなと思います。

部会長: P T A会長さんのお気持ちは学校側も十分分かってくれると思いますが、授業公開ですので先生たちがこういう学習に取り組むときに周りを自分が慣れている親が立っているのと、村の中から知らない人たちが見ているのでは子どもたちの心境もかなり違ってきますので、その辺を考慮していただいて子ども中心に考えた場合には単なる講演会にはどうぞ聞きに来てくださいで済むんですが、具体的な授業研究ということになりますので場合によっては子どものプライバシーにまで入り込んでいきます。あの子の日頃の考え方とすればというような辺りまで出てきますので、その辺を第三者にまで公開していいかどうかは学校側で十分慎重に検討していただければと思いますので、授業公開については場合によっては学校にお任せいただくということでもよろしいでしょうか。私は今の教頭先生のご判断は正しいように感じます。

委員: 出来る範囲で参加できればと思います。そして今その回答をいただいて気持ちが沸いてきたんですけども、今保護者の理解というのはどれだけ得られているのかというのが私は気になっていて意識調査をこれからするかどうかという話も遅いような気がするのでその前に説明をくださいと思います。小中一貫やっていくのはどこだっという思いが沸いてきて、訴えているのはどこだということでそれは先生方がやることではなくて村というか教育委員会じゃないですか。館報にあれだけのコラムを次長さんが書いて報告をしていますけれどもあれでは報告になっていないと思います。保護者がどれだけ理解しているか理解して小中一貫までもう1年を切っていて半年も切っています。この時点で保護者が何をやるのと口を揃えて言うようではそれはどうかなと思いますし、説明会を開くということではなくて情報をいただける、館報に乗せているから情報を公開しているというのは独りよがりだと思います。私も情報を皆さんにお伝えするのにお手伝いはしたいと思いますが、説明するからといってこれだけしっかりしたことを私一人で説明するわけにもいかないし説得力も無いです。しかもそれは限られた人に説明するだけであって全校には広がらないわけです。誰でも一般の村民が保護者の人達が今ここまで進んでいて今度はこういうことをやるということを随時少しでも知っててもらいたいなと思います。

部会長: 非常に大事な話をしていただきました。一度これまでの所をまとめ

させていただきますが、これからの小中連携会議、特に授業研究等を中心として中学や小学校ではこういう計画があるのでそれぞれ小中の職員や委員の皆さんは都合がいたら出ていただいて、そういう中で委員として研究を深めていただきたいということですのでよろしいですか。それらについて要望、意見、質問等がございますか。よろしいでしょうか。それでは次の課題に進みます。

(3) 保護者からの意見・要望等について

教育次長：まず情報の出し方や広報周知の仕方が足りないということは重々自覚しておりますので、先ほどご提言いただいた部分で出来るだけ分かりやすく、風通しが良いような形で形式ばったことではなくてということ考えていければと思っていますのでよろしくお願いいたします。先ほどもお話が出ていますが報告ということで中学校統合ということで議員発議ということで、ここでは保育園、小学校、中学校に子どもを寄せる全保護者だけではなく全世界帯を対象とするよということ全村の意識調査を行って欲しいという発議がなされて、それに対して議会としては全員が賛成したという形になります。実際にこれをどういう風に行うかという部分についてはまた今後になってきますが、とりあえずそういう形が出されたということで今回皆さんにご報告という形にさせていただきたいと思います。資料の中に市民タイムスの取材に対して同じ考えの筑北村議会議員が同じ趣旨の発議をする準備をしているとしたということも書いてあるので、今ちょうど筑北村の村議会が定例会をやっている最中なので最終的にどんな形が出されるか分かりませんが、それに対して新しく新聞でも出されたり結果の方も報道される形になるかと思えますので報告までということですのでよろしくお願い致します。

部会長：重点項目のPTAとして以前にPTAの一本化という話も出ていましたのでその辺りで何かありましたら先に話していただいて、親の気持ちやら何やらとこれらを結びつけながら皆さんのお考えを出していただければと思いますのでよろしくお願い致します。

委員：先ほども言いましたけれども6月の部会から夏休みを挟んで今回ということなので、やっと運動会も終わって活動としてはPTA作業とか運動会のお手伝いをしてというところなんです、11月に役

員決めとかこれからの事業とかを決めていかないといけないと思っています。そここのところでどういう風な意見が皆さんから出されるかということで進めたいというところです。まだ大きな変化は無いですがけれども50周年もありますのでそれに向けて私たちも考えていかなければいけないと思っています。何かやるのが正式に決まった時に皆さんに周知が出来るかなと思っています。とても職員の方一所懸命やっというし、教育委員会も人数が少ない中でいろいろとご足労をお掛けして進めている今大事なところだなということは重々分かっているんです。なのでお手伝いしたいなと思いますので広報とかに関しても職員の人に任せても良いのかなと思ったりもして、私たちが出来る範囲で入力をするだとか出来る範囲でやろうとは思っているんですが、そこは任せっきりになってしまって保護者の人たちも情報が来なくて気持ちも離れていっちゃって、今までもそんなに6月から今にかけて教育委員会何をやっているんだという話も出てこないんです。皆さんが集まる中でも生活をするのに精一杯でPTA作業も早く終わらせようという感じです。運動会だって子どもたちを一所懸命応援するからPTAのことなんか触れません。皆家庭それぞれ精一杯で女性も職に就いている人ばかりなので、この地域にいて裕福な家庭というのはそうはいないと思います。一所懸命村営住宅に今人気で入っているからそれなりの家庭なわけです。皆さん余裕が無いんです。なので悪いけど行政に任せっきりになりますし、でも子どもたちは立派に育てたいし今切り替え時で何かやるよというときに、どうなるんだろう筑北村は離れていってしまったり私たちはどうなるのという思いがあると思います。そこを分かってもらいたいなと思って今歯がゆくて役をやっているんですけど、ぜひお手伝いできることがあればお手伝いしていきたいと思っています。

部会長: 本当にありがたいと思います。両方で一緒にやっという気持ちで子どもをどんどん良い方向へ育てていくなということは感じていますが、先程の広報活動をもっと真剣に考えていこうじゃないかということ、そして全世帯に意識調査ということについては学校の問題ではなくて村や教育委員会の問題なのでまだ教育委員会が開かれていませぬので教育委員会にかかっていません。今度定例会がありますからきっとそこでお話があるかと思っています。もし皆さんの意向があ

りましたら今日ここに教育委員も何人かいますので教育委員会の中でも反映できるかと思えますので、それらを含めてご意見があったらいろいろお聞かせいただいて、我々はこのことをここで決定する部会では無いので思っている願いは皆さん同じですから皆さんのお気持ちを何なりと聞かせていただいて、それは今日この部会としてこうすべきだということでは無くて、各自のいろんなアイディアをお聞かせだけいただいて最終結論を出すとすれば教育委員会の方に出すなり、最終的には理事者の判断になろうかと思えます。こんな手順になると思いますがよろしいでしょうか。皆さんの気持ちをお聞かせください。

委員： お願いします。今の話を聞いていて私も同じ気持ちというかPTA会長の気持ちはすごく良く分かります。今の歯がゆい気持ちというのはPTA会長として部分は一人の母親としての立場を母親と話すときもどういう気持ちなのかということまで感じられるような話だったなと思って、私も本当につくづく自分がやった時にも同じように歯がゆい思いをしながらというのはありました。とっても良く分かります。協力もしたいただ皆さんの方でやってもらうのも無責任すぎる、例えばアンケート一つ取りたいその行為を半減させたいということを行っているのはすごく分かると思ったので、今のPTA会長さんにも聞きたいなと思って例えば去年の会長さんは副会長さんでやってもらったりしたんですが、最近のPTAを見ていて保護者の感じが何か変わったところがあるのか逆に何も無いのか今はどんな現状でしょうか。例えばこの一貫教育に関わらなくてもPTAとして役員を決めたりとか外部に出ていくという部分を含めた中で、話とか聞こえてくるものがあるのでしょうか。私たちの時はそれでも人数がまだいたってところがあるので、大変だねという意見は確かに聞いたり実際に外部の役員までというときにはひと悶着あったりもしましたが、そんなようなところで最近のPTAの置かれている状況ってどうなのか一言では言えないと思えますがどんな感じでしょうか。

委員： 今の2年生の学年が中学に入学する時に坂井の子が来ないよというきっかけだったんですが、その時は6学年の保護者の人たちがそれは無いだろうとか、子どもたちのためにやってくれないかなという声一杯出ていました。その時は村とか教育委員会に対する怒りというかなんでそうなのという意見がよく聞かれました。それを持つ

ていけば今違ったのかもしれませんが、今はそれが無すぎて2年ぐらいが経っています。特に情報も無いから来年何かあるのという状態です。今PTAの方でも組織編成を変えてしまったのでそれで精一杯というのと、PTAに対しての不満とか希望というものが多分あるとは思いますが、教育委員会で来年から小中一貫にするという話がまるっきり出てこない、多分今の低学年の保護者はそうだったのとか流されているというか、情報が来ないから一貫になっても今とそんなに変わらないでしょという諦めの声をちらほら聞きます。全員がみんな喋っていないくて影ではそういう思いが強いんじゃないかなと思います。自分たちの小学生の子どもたちが中学生に上がった時に村営だから、でも発表もないしそんなに変わらないでしょという感じだと思います。

委員：その気持ちというのは本当に率直な話だと思うし、一部しか聞こえてこないかもしれないですけど私たちも一部からそういう話があったり、なかなか声を大にしてどういう風になるのと聞く人はいても、どういう風にしていきたいよねと話をする人はいませんでした。その辺は親たちのコミュニケーションの部分もあるのかもしれないけれど、先程から言っている情報がなかなか見えないという当初は村長の方からこういう教育方針を迎えるよという話があったんだけど、あまりにも杓子定規過ぎてしまって内容が細かいところもスタートしたわけじゃないからということもあるけれど見えない、一体何がどう変わるんだというところを皆聞きたいけれどよく見えていないというところだったんじゃないかなと私も感じています。いつまでもそんなところで止まっているのではなくて見えないのであれば見えるようにしてあげることが大事だと思うので、そこをここにいる部会のメンバー例えばPTAも役員代表で出ているけど、この人たちの力とかもしくはその人たちがどう学校の保護者の人たちに発信しようかというところまで行き届くためにも、何を今どういう風に進んでいるということが分かるように進めるということが大事だと思います。もう一つ私が今考えているのはこれから本当に一貫教育になってくると実際には中学も小学校も麻績村の保護者なんですよね。ということは小学校のPTAも中学校のPTAも役員さんも皆麻績の人たちだし、もしかしたら役員そのものが兼任でやらなくてはいけないような人数になってしまうという状況になって

きた時に、先生たちはそれぞれの学校のことで話を共有することが出来るんですが親としては共有も何も自分が何役かやらなくてはいけない、ひとは家庭の中で何役かやらなくてははいけないというところまで追い込まれてくる時があるのではと思います。そういう時に私も去年少し提案をさせていただいたんですが、例えば外部役員で出ていく北部PTAとかが続くとすればそれぞれ小学校のPTA代表と中学校のPTA代表ですとそれぞれ出すのも大変だと思います。それをPTAの私たち保護者だけでどうやろうかというのは不安が残るかなと思っています。PTAですので保護者、それから学校関係からもそのような力添えというか声掛けのようなもの、もしくは教育委員会の方から麻績村の場合は一貫教育として出ていきます、中学と小学校の建物は違うけれども小中学校のPTAから出ますというような形とか、少なくとも内輪の中の、この地域のPTAとしての活動の縮小というのは進んでいると思うんですが、それをまた外部へ出ていくところのPTAの活動を縮小というか簡略というような方向を目指してもらえないかな、その辺をPTAの人たちも思っていると思います。今年もしくはもっと先に重荷に感じてしまう役員さんも出てくると思うので、その辺の簡略というのも考えて一緒に力添えをしていただいたらありがたいということは私も考えているので、今後検討していただけるとありがたいと思います。

部会長: 非常に貴重なご意見をいただきましたが他にどうでしょうか。

委員: PTAのことに言えれば、同じ人が会計、副会長、会長とやっていますけれども中々厳しいと思います。現実としてやっていない方というのは何かしら事情がある家庭なんです。その家庭の方に順番だからやってとなりがちです。私も去年負担を減らしたのがそういう意味もあって、仕事を軽くすれば事情は分かるからもう一度やりますと言う人が出て来てくれないことも無いかなと思って、けど現実的にはほった回しなのは確かです。私ももう一度会長やってと言われたら無理ですし、誰がやるんだとなったらやっていない人に行くんですがその人は事情があって出来ないのも、でも今の現状としては皆で事情があるからとなっていて、その事情が理解できる理解できないという風にどうしてもなってしまうと思います。先ほど高野さんも言われましたけれども正直生活するので精一杯というところはあります。PTA活動にあまり重きを置きたくないという時

代なのかなと思います。そもそもPTAはお父さんが働いてお母さんが家にいる家庭のお母さんに支えられていたものだと思いますが今は時代が変わってきているので、その辺は刈間さんが言われた通り一貫教育ならばPTAも一貫にしても問題は無いかなと思うし健全なのかなと思います。外へ出ていく機会があってもフィードバックする機会も無いです。作ればいいのではと言ってもそれは手間ですし、報告会しますといっても現実的には誰も来ないです。それでも出なくてはいけないのであれば、少なくするのが妥当なんじゃないかなと思います。

部会長: 他のご意見はございますか。かなり具体的にしかも深刻な話が出ています。多少の無理はしょうがないにしても無理なくできるよう進めていくにはどうするのか、せつかく小中が一貫でやっていくというならばどういう手助けができるのか、学校というのは都合が良いんです。この委員の人たちだけで考えているのではないので、さっきお話が出たようにすべての職員そういう形でみんなで協力してここに集約されてきていますから、PTAは持ち帰ってみんなで頼むねという毎日動いている組織では無いですからやりにくい、苦しい中での悩みはすごく分かるような気がします。ぜひ今の問題提起について先生方も学校の先生方も同じ委員会の仲間として考えていただければと思います。この課題また次回に持ち越しとなりますが11月に役選があるようですから、それらを通しながらまた発展できるところから発展させ教育委員会として協力できることがあれば何なりとお申し付けいただくということによろしいでしょうか。

副部会長: 今までの中で話がありました広報の関係も広報というのは難しいとは思いますが。興味のある人はどんな形でも見ます。ネットに公開すればいいかという人から見ますし、ネットだと自分で選んでいますからポンと入ってこない、むしろ館報の方が見る見ないという問題はあるかもしれませんが全戸に配布されるから情報はあるから見る可能性はあると思います。館報は数ページにわたって書けばいいのか、イラスト入れて書けば見るかと難しい部分はあります。目から入る方がいいのか、耳から入る方がいいのかということがあると思います。私は耳からの方がいいと思います。耳から入ると説明をという話にもなると思います。そうすると一部の有志の方からも説明会を開けというような話も出ていますが、そういう中で鶏が先

か卵が先かという話になってしまうかもしれませんが、そういう説明会を村なり教育委員会で開催するについて何時だったら相当多数の方が集まっていたのか、逆に言うと参加者をどの程度集めていたのかということだと思います。そうしないとそこに小学校の全家庭数70程度かと思いますがその内の数名来ただけでは有効かどうかという話にもなります。鶏が先か卵が先かという話になってしまって申し訳ないんですが、村にしても教育委員会にしても決して皆さんを置き去りにして思い勝手にやろうとしているわけではないです。広報はまた研究しないといけないですし、こういう議会で可決されたものもあります。これは一貫とは違った形で中学を統合しろということで、この谷の中に中学は2つも要らないから少子化という中で1つにしろというような趣旨だと思いますが、それと一貫というのは分けて考えなくてはいけないと思います。変な例かもしれませんが結婚したい二人がいても片方が嫌だということ出来ないのでは今そういう状況なのでそれをどうするかということで、一緒になろう一緒になろうといつまで言っても始まらないから麻績は麻績、筑北は筑北で独自にやろうとしている形ですからそこから辺の事情をお話したり、中学の統合はすぐは無理だからそこに行くまでに子どもたちが国際的にもなってくるというようなことで中学や小学校の先生方から部会の報告をいただきましたけれどもそういう形でやっています。それをどういう形で村民やPTAの方に報告するかということで研究は皆さんしてくださっているかと思いますが、そういう中で耳から入った方がいいということになればお集まりいただける所を何時にするかという形もPTAの方にもご協力いただきたいと思います。伏木先生の記事もあつたりしますけれども、去年伏木先生にご講演いただいたのも非常に良い講演でした。小中一貫ということで、この部会の人はお聞きになっている中原先生は前校が小中一貫の美麻で非常にご苦労されたりした経験をお話していただいています。いくらでもそういうお話しはするのであればいくらでもしたいと思いますので、人が集まる時期、時間を教えていただければと思います。

委員: この記事に関しては私は正直興味が無いというか、小中一貫がどう進んでいるかということが皆さんの興味のところどころでこういう所は私個人としては問題外になっています。こういう行動があるからこそ

小中一貫はこうだというアピールをしてもらいたいです。今こういう風に進んでいます、館報にも載っています、だけど先生方が一所懸命やってくださっている取り組みとかをピックアップして文章化するとか、集まる時間とか場所を設定するのではなくて出向いて欲しいと思います。保育園なら保育園の参観日について15分ぐらいの中で今こうだよと説明する、小学校の参観日で説明をするとか時間を割いてそこで説明をするなり、集まってさあ来て下さいじゃ今までの経験上無理だと思います。学校の行事、保育園の行事にお手数ですけども来ていただいてぐらいの設定をしてもらいたいです。筑北村さんと比べるわけではないですけど向こうは説明会とか散々やってきていますけれど、向こうは問題が違うから人も集まるのかもしれませんが私たちは何度も個人的には皆さんに周知して集まって下さいという機会を設けてきたんです。それでも集まらないしどうすればいいかと言うと、小学校の役員だから学校の参観日とかに合わせた方がいいよねということで小中一貫の説明会を設けてもらったことがありました。皆さん結構参観日の後に残ってくださっていました。なので機会というのを見計らって私も今疲れているので、またやるのかとか、そういう時間を考えなきゃいけないのかとか、何でという所があるので村の方で考えていただければと思います。

部会長：今実情は副部会長がまとめてくれましたが、今具体的な案として人を集めることも良いが集まっているところへ出ていけ、ただ集まっている時はそれぞれ目的があるし時間にかなり制限があるので、そこは校長先生に教頭先生、教務の先生も揃っているの皆さんと調整をしながら誰が出ていってどんな話をするのかという辺りを詰めてもらいましょう。次長さん中心に進めていきましょう。極端な話、保育園の所に教育委員会の誰かが行くよりも小学校長さんが行ってそのことにも触れながら話すとか、小学校の集会の所に中学校長なり中学の教頭先生が行ってこういう風にやっていると話すのも一つの案だと思います。とにかくこちらから人が集まったら出ていけといい案だと思いますのでまた検討しましょう。今のよういろいろな所で話しかけていくことが大事かと思います。ご提案のことは大事に思ってこれからも検討していきたいと思います。それではその他に進みます。

(4) その他

部会長：教育次長の方から説明をお願いします。

教育次長：前からどこかに視察とかというご意見をいただいていたのですが、信濃町の小中一貫校なんですけれどもここで学校づくりを考える日のご案内ということで文書をいただきました。10月31日に授業公開をしたり分科会の中でいろんな先生向け、行政向けの小中一貫の学校運営という部分で、直接絡む部分と絡まない部分があるとは思いますがけれどもご案内をいただいたという所でどうかなということでは提案をさせていただきました。

部会長：いかがでしょうか。私はこれを聞いてそういう意見も出ていたし都合のつく人で行こうという感じになりましたがいかがでしょうか。これは具体的に希望があればどこでまとめてくれますか。

教育次長：こちらでまとめます。ただ平日なので何時から行くかというのはこれからの部分ですが、人数は最小と最高の制限はありません。

部会長：1月先のことですが紹介をいただいたということで、皆さん出来るだけ参加するという方向で考えていただいて、きっと村の方でバスを出していただけるので皆で行って研修をして親睦を深められればいいと思いますので、具体的な通知がもしかしたら行くかもしれませんが、参加希望についてまた報告してもらえればと思います。

教育次長：これ以上の資料は多分来ないので、参加出来る出来ないの報告をいただければと思います。その報告は出来れば今月末までにいただければと思います。

部会長：それではとりあえず第一次の締め切りは今月末までということで、学校の方は校長先生を中心に調整をしてください。PTAの皆さんは是非ご参加いただくということで検討していただければありがたいです。教育委員会の方は今日欠席の方もいらっしゃるのでも改めてそれぞれの教育委員会で諮ります。それでは各委員会ということですが、今日話題になったことでも何でもいいから何か言いたいことがあったらどうぞという時間です。何かありますでしょうか。これから毎回取っていただきますのでその日の議題と関係なくても思いついたことを言っていただくと後々に生きることがありますので是非活用してください。PTAにお願いしたいことがあります。学年PTAの時にその他各ご家庭からという時間を必ず設けて、学年

P T Aに関係ないことでも気になっていることなど参加者から自由に発言、発信してもらう時間を取ってもらうと色々な意見が出てくるかなと思いますので要望をしたいと思いますがお願いします。

委員: 1点お願いします。私は小学校だけでなく来年から養護学校の方でも役員になります。来年県の担当校になりまして県に陳情をしに行くんですけども、養護学校のP T Aはとっても熱心で県への陳情とかも県立の学校なので県へ直接いくんですけど、その中の一つの要望としてインクルーシブ教育をどんどん県から自治体の方に勧めてほしいという要望を出します。特に副学籍に関して特に具体的に示されているんです。南進の方では副学籍は結構多いんですけども中信地区は結構少なくて、麻績と筑北とあともう一校がパイオニアというか最初に手を入れてくださった学校で、それが話の中でも出ていて安曇養護からも今具体的にどんな風に進めているか教えて欲しいという風に言われました。2年前に副学籍を取りましたが、その時に村にかなり熱心に取り組んでもらったおかげで当時は他の学校では副学籍は受け入れていないからという感じで難しいかなという話をされたんですが、今ではどんどん進めてほしいということになっています。本当におかげさまで恵まれたところについて有難いなと思います。小中学校の先生方にもご努力いただいて本当に感謝です。今後、今副学籍を持つ子どもが中学にはいますけれども、小学校にはいなくてこれから出てくる可能性はあるかなと思います。これを絶やさずにどんどん進めていただいて今後も対応とか受け入れとか絶やさずに今まで以上に熱心に取り組んでもらえたらいいなと思います。

部長: ここにいらっしゃる先生方も支援教育には非常に造詣の深い方々ですので、これからも麻績村は更なるパイオニア的な働きをしてくれると思います。一緒に頑張っていきましょう。他にありますか。それでは次回の開催日程についてお願いいたします。

4. 次回開催日程

令和元年 12 月 3 日(火) 17 時 00 分 ～

部長: それでは、閉会をお願いします。

5. 閉会

教育次長：長時間にわたりお疲れ様でございました。私自身もいろんなご意見をいただく中で、事務局が説明をして終わりという会議が最近多いので、そういう意味でもここにいる皆さんが腹を割って話していただいているいは要望をダイレクトに頂いたという部分は有難かったと思います。こういうのが会議の本筋かなと思いますのでこれからもよろしく願いいたします。以上で、麻績村の教育方針に関する研究検討委員会第16回の保育園・学校部会を閉会いたします。

(閉会 19 : 26)